

# 教職支援室便り (12月号)

令和2年 12月11日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

## 教職支援室活王者数 12月1日現在 延べ401名

本年度も、多くの方々が教職支援室を活用されています。本当に感謝の気持ちで一杯です。コロナウイルス対策の中、電話やメール等で相談される方を含めると、12月1日現在で、「延べ401名」の皆さんに活用していただきました。

相談者の多くは、本学3・4年生の皆さんですが、中には卒業生や学校現場の先生方もおられます。道徳教育（道徳科の指導）の在り方、生徒指導上の諸問題への対応、学級経営の在り方など、様々な問題・課題を、先生方と共有しています。私にとっては、大変貴重な時間であり、教職をめざす学生の皆さんへの支援においても、大変参考になるものです。

学校教育を取り巻く問題・課題は、年々深刻さを増しているように感じます。今後も、幅広く支援に努めていきたいと考えます。

### 教職をめざす、本学1・2年生の皆さんへの支援も大きな課題です！

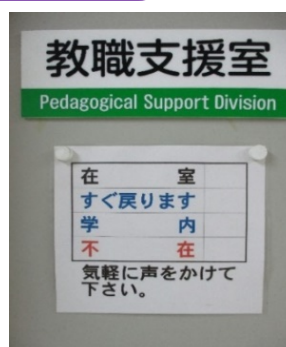
教職をめざす、本学1・2年生の皆さんへの支援は、今後の大きな課題と捉えています。現在、1・2年生の中には、個人的に相談される方はいますが、全体的には教職支援室担当者との交流がほとんどなく、計画的な支援の場の設定が望まれます。「教員採用試験や教職について知りたい」、「今学校ではどのような問題・課題があるのか知りたい」など、支援を求める声も少なくないと聞いています。今後は、様々なニーズに応えられる、体制づくりが重要であると考えます。入学から卒業までの間において、教員としての資質能力を、組織的・意図的・計画的に育成する取組が、更に求められると思います。

学生の皆さんと教職支援室担当者が語り合える環境、そのような場を、より多くつくっていききたいと思います。

## 教育実習を体験して

教員免許取得をめざす学生の皆さんは、例年5月から6月にかけて、教育実習に取り組みます。しかし、本年度の教育実習は、コロナウイルス対策のために、多くが9月から12月の期間に変更されました。

この教育実習は、学生の皆さんにとって、教職に関して多くのことを学ぶ、貴重な場になっています。教員としての資質、学校現場の問題・課題、児童生徒理解の難しさ、授業の難しさや成就感、教員志望の更なる情熱など、体験したことは、これからの教職人生に大いに生かされると思います。特に、子ども達との触れ合いは、強く心に残ることでしょう。教育実習最終日に、子ども達からの「先生、また学校に来てください。」の言葉などは、一生忘れられない言葉になります。



## 「教育実習を体験して（感想）」

先生の動きや指導の仕方、現在の子どもの状況を把握することができて、とても勉強になりました。教師は多忙だとよく耳にしますが、本当にいつも忙しそうだなと感じました。しかし、生徒の前では必ず笑顔で、その疲れを感じさせないところが本当の教師だと実感しました。授業においては、生徒の積極性に驚かされました。指名しても嫌がらずに、ほとんどの生徒が発言していました。クラスの雰囲気、それを可能にしていると感じました。

学校現場で実際に体験して、たくさんのことを学び、多くのことを得ることができました。このことは、必ずこれからの教職人生に生かしていきます。

## 教員採用試験英語科合格者数（九州各県）

採用年度		令和3年度	令和2年度	令和元年度	30年度	29年度	28年度
宮崎	中	10	15	11	11	10	6
	高	2	6	3	6	2	4
沖縄	中	14	15	15	17	16	19
	高	7	7	5	4	4	5
鹿児島	中	20	20	18	15	14	14
	高	3	3	4	3	2	1
大分	中	20	22	22	12	15	15
	高	10	6	9	6	6	6
熊本	中	11	13	12	14	12	11
	高	2	2	3	2	2	4
長崎	中	14	14	12	9	9	16
	高	8	7	5	5	8	7
佐賀	中	17	14	14	10	8	11
	高	5	4	4	7	6	6
福岡	中	49	36	40	46	40	35
	高	18	27	32	22	31	32

現在の教員採用試験においては、小学校教員の採用者数が全国的に多い一方で、中学校英語、高等学校英語については、本資料の合格者数からも、依然厳しい状況にあると言えます。また、大学生の皆さんにとっては、学校現場で勤務している、臨時的任用講師等の先生方との競争試験であることから、本当に狭き門であると考えます。

本学では、教員採用試験に向けて「特別講座」を行っていますが、学生の皆さんの自助努力も不可欠であり、英語力を磨くこと、向上させることは、合格への必須要件です。トイックや英語検定試験等には積極的に取り組み、より高い資格を獲得してほしいと思います。更には、教職教養に関する知識を習得、活用して、教育問題に対する自己の考えを、十分に表現する力を身に付けなければなりません。教職教養の演習で培われる力は、一次試験「筆記試験」だけではなく、二次試験「面接、集団討論、グループワーク、小論」等にも、大きく影響します。

大切なことは、来年の一次試験に向けて、意図的・計画的に、誠実に演習に取り組むとともに、自分で工夫しながら勉強を進めていくことです。担当者としては、学生の皆さんのあらゆるニー

ズに、応えていきたいと思いますが、各自「主体性」をもった取組が重要です。1年の間には、壁にぶつかることもあると思いますが、問題意識・課題意識をもって、粘り強く取り組んでほしいと思います。私も学生の皆さんと、充実した1年を過ごしたいです。

## 教員採用試験合格者の声

ちょうど一年ほど前、勉強会が始まり、「いよいよ試験への準備が始まるのか！」というワクワクと、「何をしたら合格できるんだろう？」という、先の見えないような不安が、入り混じった気持ちだったことを覚えています。今回合格できたのは、勉強会のおかげだと強く感じています。過去問研究を徹底的にされた対策プリントや、丁寧に二次対策をしていただいたこと、全てに本当に感謝しています。また、勉強会を通じて、一緒に頑張れる友達もできました。不安に押しつぶされそうなどき、今いち頑張れないとき、友達と話したり、頑張っている姿を見たりして、自分を奮い立たせることができました。一人の力では、絶対にここまで頑張れなかったと思います。これから勉強会に参加される方たちには、自分に厳しく、友達と励まし合い、先生を信じて、頑張ってください。応援しています。

二次試験が終わってから合格発表までの約二ヶ月間は、本当に長く感じました。合格発表で、自分の番号を見つけたときは言葉に表せないほど嬉しく、これまでの努力が認められたように感じました。そしてそれと同時に、小さい頃からずっと持ち続けた教師になりたいという夢を叶えることができ、胸がいっぱいになりました。一次の筆記試験や二次の個人面接、模擬授業など、すべて乗り越えることができたのも、親身になって支えてくださった先生方をはじめ、家族や友人のお陰だと思っています。また、この期間を通して、自分がどのような教師になりたいのかという教師像なども、明確にすることができました。この合格を終わりとするのではなく、スタートラインに立てたことに感謝し、これからも学び続ける姿勢を大事にして、教師になってからも成長していきたいです。

小学校の頃から学校の先生になるのが夢でした。その夢を叶えるため、塾などに行かず、大学で勉強会ができたことは、自分にとってとても魅力的でした。勉強会を通して、知識はもちろん、「長い期間、ここまで勉強し続けてきたんだ。」という自信も得ることができました。とはいえ、試験前になると不安や焦りを感じることも多く、そんなとき、目標を共にした友達のがんばりが、とても励みになりました。また、支援してくださった先生方にも、とても感謝しています。

試験の合格発表のときは、自分の番号があることが信じられず、何回も確認したことを覚えています。大学は第一志望ではなかったけど、最終的な目標を達成できたことで、自分の選択は間違えてなかったと思えたし、何か一つのことをやり切った経験は、自分が予想していたよりも、大きな自信になりました。何もせずに後悔するより行動できたことを、今は誇らしく思います。就職をゴールではなく通過点なんだと考え、これからも色々なことにチャレンジしていきたいです。

# 道徳の教科化に思う！（シリーズその43）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について掲載しています。今回は、「教材・手品師・指導資料」として、本教材に関する「発問構成等」についてまとめました。本教材については、本年7月号に「教材の見方・考え方」を紹介しましたが、今回は続編として、「発問構成等」について掲載します。

1 教材名「手品師」

2 対象学年 小学校5・6年生

3 内容項目 A-（2）「正直 誠実」

4 教材内容（概略）

腕はいいが、あまり売れない手品師がいた。ある日、しょんぼりとしている少年と出会う。そこで手品師は、少年に様々な手品を見せる。二人は仲良しになり、手品師は明日も手品を見せる約束をして別れる。

その日の夜、友人から大劇場への出演の話を受かされる。少年と約束した日と同じ日であることから、手品師は悩みに悩むが、最後は大劇場への出演を断り、少年との約束を守る。

5 発問構成例（展開前段） ○・・・期待する児童の反応 ◇・・・指導上の留意点

Q1. 男の子と町で出会い手品を見せた手品師は、どんな気持ちだったでしょう。

- こんなにも喜んでくれてうれしい。自分も元気をもらった。
- 少しでも明るくなってよかった。
- 自分の小さい頃を思い出す。かわいらしい子だ。

◇ 導入では教材を読む前に、話し合いたい場面を意識するよう助言するが、児童からその場面として出されなくても、葛藤場面と関連する場面として取り扱う。

◇ 男の子が手品で喜んでくれたことで、手品師も喜びを感じていることを話し合う。また、苦しい生活をしている手品師は、さびしい思いをしている男の子の気持ちがわかるのではないか、ということにも触れてみたい。

Q2. 大劇場への出演の話聞いたとき、手品師はどんなことを考えたでしょう。

それぞれの考え（①男の子との約束を守る②大劇場へ行く③迷う）の中には、手品師のどんな気持ちがあるのでしょうか。

【①男の子との約束を守る】

- 約束をしたから。男の子が待っている。
- さびしい思いをしている男の子を裏切れない。
- 行かなかったらとても悲しむ。

【②大劇場へ行く】

- お金も入ってくるし、有名にもなれる。
- 自分の夢がやっとなう。
- 友人の気持ちに応えたい。大劇場のお客さんを喜ばせたい。

【③迷う】

- どちらを選ぶか、すぐには決められない。
- 両方に行けないのか。

◇ ①～③の反応はすぐに出てくるので、それぞれの考えの中にある気持ちを、十分に話し合うようにする。

- ◇ 「あなたが手品師だったら、どちらを選びますか。」などの発問はしないようにする。二者択一をさせることで、「手品師はどうすべきか。」と置き換える児童もいることから、正論を強いることにつながる。また、解決策に言及することも考えられる。
- ◇ 「約束の場所に置手紙をしておけばよい。」「男の子を大劇場へいっしょに連れていけばよい。」などの発言があった場合は、手品師がそのような行動を取らなかったことをおさえ、手品師のために、様々に思いをめぐらせてくれたことを賞賛するようにする。

補～あんなに男の子と約束したのに、それでよいのでしょうか。

- 自分の夢をかなえたいと思うのは当然だ。
- これまで苦しい生活をしてきたのだから、楽になりたいと思うのはわかる。
- ◇ 手品師を弁護する意見を多く引き出すことで、手品師の迷う気持ちに深く共感させ、次の補助発問につなげる。
- ◇ 手品師が友人や客に対して、誠実でありたい気持ちも大切に扱い、単に大劇場へ行くことは不誠実である、という考え方で指導しないようにする。

補～人には、他の人より自分のことを優先して考えるところがあるのでしょうか。

手品師は、自分のことを優先して考えてはいけないのでしょうか。

- 人には、他の人より自分のことを考えるところがあると思う。
- 自分にもそんなところがある。みんなもあると思う。
- 手品師は、自分のことを優先してもよいのでは・・・。
- ◇ 自分たちにも人間としての弱さの一面があることを、教師と児童全員で共有したい。このことは、男の子との約束を守り、再び手品を見せる手品師の、人間としての強さを感得する重要なポイントとなる。
- ◇ 手品師が自分のことを優先して考えてはいけないのかについては、児童が悩みに悩むことが予想されるが、最終的には、迷いに迷った手品師自身の判断が、正しい判断であることに気付かせる。

Q 3. 翌日、男の子の前で懸命に手品をしている手品師は、どんな気持ちだったのでしょうか。

- 「これでよかった。」と、自分に言い聞かせている。
- 自分が約束をやぶったら、男の子はずっとさびしい思いをする。
- 自分でしっかり考えて決めたことだ。まちがっていない。

補～手品師を突き動かしたのは、何だったのでしょうか。

手品師が大切にしていたものは、何だったのでしょうか。

- 人のことを思うやさしさ、誠実さ
- 自分の心に正直に行動する力
- 弱い心に勝つ強い心

補～人はそこまでできるものなのでしょうか。

- 自分はそこまでできないが、これからそんな心を持ちたい。
- そんな心をもっている人はいると思う。
- 将来、少しでも手品師に近づきたい。
- ◇ 手品師が他者だけではなく、自己にも誠実であったことに触れながら、児童が自分との関わりの中で、生き方についての考えが深められるよう導きたい。
- ◇ この場面においても、まだ大劇場への思いを断ち切れないとする発言があれば、それも大切に受け取り、そのような人間の側面も認めつつ、それを乗り越えようとする人間の強さがあることに気付かせたい。